

終わりに

副校長 新井 雅晶

今回の研究発表会は、ユネスコスクールとしてESDの視点に立った授業改善に取り組んで、初めての研究発表会となります。「ユネスコスクール NISHITA の挑戦」として3年間取り組んだ実践を通して、総合的な学習の時間や生活科の学習が充実し、子供の学ぶ意欲が高まり、教職員の意識や授業改善に取り組む姿勢が変わってきました。

「ユネスコスクール NISHITA の挑戦」を振り返ってみると、課題解決へ向けたいくつかの視点があると考えます。①学校としてのスタンスを明確にして指導内容と計画を見直すこと。②外部の教育力を活用し授業改善に向け指導方法を工夫すること。③ESDを取り入れた教育の必要性や効果の理解を教職員が自覚し、教職員の自信につなげること。④「気付き・考え・行動する子」を育成し、その検証を行うこと。さらには、⑤「持続可能なまちづくり」を合言葉に地域との協働体制づくりを進めること。これらが本校の挑戦です。

ESDと言われても何のことだか分からないといった、私たちの授業改善のスタートは、今までの指導観に捉われずに柔軟な発想で考えようとするところから始まりました。全学年の教職員で知恵を出し、自由な発想で語り合ったこと。まさに「えっ そんなこと できるの! (ESD)」が流行語になったのも忘れられません。今では「持続可能なまちづくり」が保護者や学校支援本部との連携でも合言葉となり、海外からの視察団に通訳として協力する保護者の人数が20人以上と増え、学校支援本部と同窓会、学校の三者が企画・運営する音楽フェスティバルも3回目を迎えました。ESDが西田の地域に広がりつつあることは嬉しいことです。

実践を通して教職員が変容したことは、教科等横断的なカリキュラムの作成する良さや外部人材の活用の有効性を実感するまでになり、ホールスクールアプローチとしての学校経営に参画する意識が定着してきたことです。また、ESDの視点に立った授業づくりや学校体制の整備を通して、世界の状況に気付き、共に考え、行動する子供を育てる意義を、教職員の多くが自覚するとともに、実際に子供が変容する姿に充実感を得て、学校としての創造性を高めることにつながりました。まさに、学校経営の柱にESDを取り入れることは意味があるものと考えます。本校の実践を多くの学校関係者に見ていただいたことで、今後、ESDの視点に立った授業改善の輪が広がるきっかけとなればと願っております。

最後になりましたが、御指導いただいた講師の先生方、研究にかかわってくださった皆様、授業を支えてくださった関係諸機関の皆様にお礼を申し上げ、御挨拶いたします。

2年間の研究でご指導いただいた講師の先生方

- | | |
|------------------------|----------|
| ・ 学習院大学文学部 教授 | 諏訪 哲郎 氏 |
| ・ 自由学園最高学部 特任教授 | 成田 喜一郎 氏 |
| ・ 文部科学省国立教育政策研究所 総括研究官 | 千々布 敏弥 氏 |
| ・ 立正大学 特任准教授 | 石橋 昌雄 氏 |
| ・ 学習院大学 専任講師 | 久保田 福美 氏 |
| ・ 江東区立八名川小学校 前校長 | 手島 利夫 氏 |
| ・ エコ・コミュニケーションセンター 代表 | 森 良 氏 |